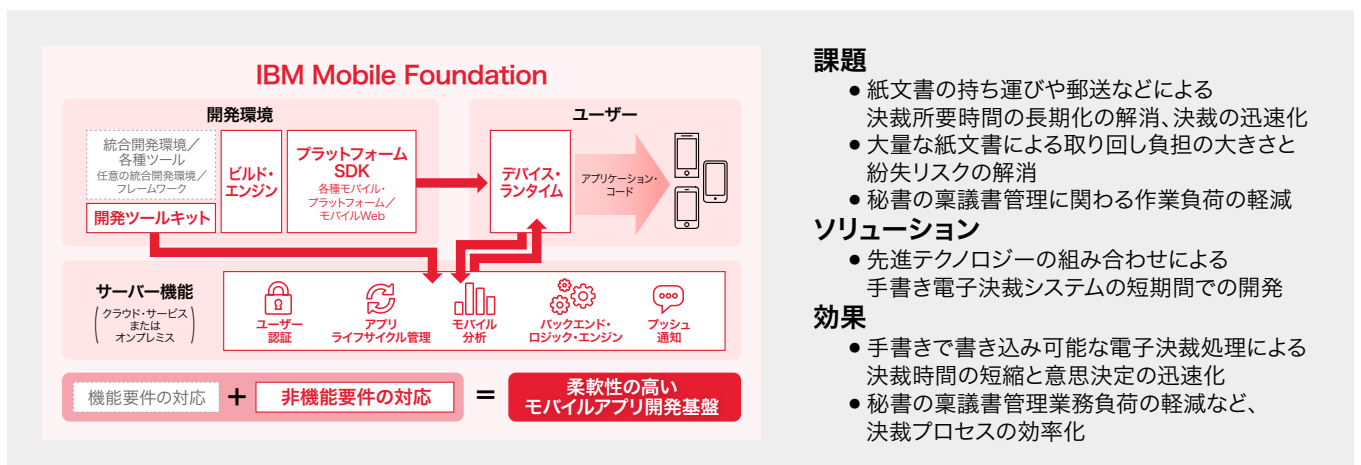




手書き電子決裁システムをIBM Mobile Foundationで短期間に構築、手書き入力の良いを残しながら、決裁の大幅な迅速化と効率化を実現

三菱自動車工業株式会社（以下、三菱自動車）では幹部への稟議書・報告書類が「紙」で回付されていたため、決裁処理に時間がかかることが課題でした。そこで、同社は手書きで書き込める良いを残しながら、決裁の電子化を図るため、IBM モバイル開発基盤、IBM Mobile Foundationでモバイル・アプリを開発し、モバイル管理ソリューション、IBM MaaS360でセキュリティーを強化したiPad ProとApple Pencilによる手書き電子決裁システムを構築しました。モバイル・アプリ開発に実績を持つIBM パートナー、株式会社ミライト情報システム（以下、ミライト情報システム）が開発を担当、短期間でシステムは稼働を開始し、決裁の大幅な迅速化と効率化が実現しました。

[導入製品] ● IBM Mobile Foundation ● IBM MaaS360



【お客様課題】

手書きで書き込み可能な電子決裁システムの実現を模索

三菱自動車では従来、稟議書・報告書を紙で作成することが、業務ルールとして定められていました。そのため、幹部は大量の文書を持ち運ばなければならず、移動時の負担となるだけでなく、紛失のリスクもありました。幹部の出張中は決裁できない場合があり、拠点をまたぐ場合には文書を社内便で送らなければならず、意思決定に時間がかかっていました。また、稟議書の管理を担当する秘書の作業負荷も大きくなっていました。これらの問題を解決して、意思決定の迅速化と効率化を図るため、同社では電子決裁システムの導入を検討し始めました。

三菱自動車 グローバルIT本部 システム基盤部の部長を務める弥田 昌希氏は「さまざまな電子決裁システムがありますが、手書きの書き込みがそのまま文書に反映される仕組みのものはありませんでした。当社の幹部は稟議書に決裁の判を押すだけでなく、手書きで図なども含めて意見を書き込んで、稟議書を上げてきた部門とコミュニケーションしています。社長から『電子決裁でも手書きで書き込みたい』と要望がありました」と語ります。

納得のいく手書きの書き込みを実現できるシステムの構築を目指して、三菱自動車はIBMに相談をもちかけました。三菱自動車は長年、IBMに基幹業務をアウトソーシングしており、IBMはパートナーとして、情報システムの構築や運用を担当しています。同社から相談を受けたIBMはモバイル・システム開発で豊富な実績を持つミライト情報システムの協力のもと、手書き電子決裁システムの開発に入りました。

電子決裁でも紙文書の場合と同様に社長直筆のメッセージを読めることで、現場のモチベーションも高まります。



三菱自動車工業株式会社
グローバルIT本部
システム基盤部 部長
弥田 昌希氏

【ソリューション】

IBM Mobile Foundationで試行錯誤を繰り返し、短期間でシステム構築を完了

2015年12月、社長に発売されたiPad ProとApple Pencilを試してもらったところ、非常に書きやすいと高い評価を得ました。さらに、セキュリティ面でも他のタブレット端末と比較して、iPad Proが優れていることを確認し、導入を決定しました。そして、IBMからモバイル開発基盤、IBM Mobile Foundation (旧 IBM MobileFirst Platform Foundation) でモバイル・アプリの開発を効率的に行うと共に、モバイル管理ソリューション、IBM MaaS360でモバイル環境での電子決裁業務の安全性・信頼性を強化し、IBM認定コアパートナーであるミライト情報システムとの協業で、短期間で高品質のシステム構築を行った上で、運用・保守フェーズへのスムーズな移行と安定稼働を実現するという提案を受けました。

2016年1月、同社はIBMの提案にもとづいて手書き電子決裁システムの構築に入りました。短期間でモバイル・アプリを開発するためにモックアップを作り、三菱自動車が試行・改修要望を行い、それに沿って迅速にアプリを修正していく形で開発を進めていきました。

三菱自動車 グローバルIT本部 システム基盤部 主任の石井 真理子氏は「今まで、稟議書を含む幹部向け書類は秘書が管理しており、必要に応じて秘書がメモを付けて、幹部に上げていました。そのため、手書き電子決裁システムによる決裁には幹部だけでなく、秘書も関わります。新システムを全社展開する前には、秘書に対する説明会にてデモを実施し、改善点の指摘を受けて、さらにシステムを改修しました」と語ります。

システムの改修は、幹部と秘書に同時に稟議書の上程をメールで通知する仕組みの追加、など多岐に及びます。ミライト情報システム エンタープライズ事業本部 第1システム部 第2システムGの課長を務める村上 欣孝氏は「3カ月という短期間で開発を完了させるため、モックアップを作って、最初は3日に1回ほど、落ちついてきた段階でも1週間に1回程度のペースで修正、変更を行い、ブラッシュアップしていきました。Apple Pencilが発売されて間もない時期だったので、技術的に分からない部分も多く、IBM Mobile Foundationを

開発プラットフォームとして利用してきた経験とノウハウを生かして、試行錯誤を繰り返しながら、実装を進めていきました」と振り返ります。

「IBM Mobile Foundationは、非機能要件に対応した機能も豊富に提供しているため、アプリの保守と管理も効率化できると考えています」(村上氏)。

[効果/将来の展望]

決裁スピードは格段に向上し、意思決定の迅速化に貢献

手書き電子決裁システムは2016年4月に社長用として利用を開始し、7月に一部部門に先行展開、10月には全社で使うことができるようになりました。50人ほどの幹部がiPad ProとApple Pencilを使用して、決裁しています。「リリースした初日にいきなり100件ほどの申請が上がってきましたが、大きな問題もなく、そのままスムーズに決裁することができました。幹部の評判もよく、また、業務部門や秘書の人たちも決裁スピードが非常に速くなったと喜んでます」(石井氏)。

「リリース当初の利用は少ないと考えていたのですが、予想に反して、1日目から皆さんにたくさん使ってもらえることができて、大変うれしく思っています」(村上氏)。

特に遠方の拠点では効果が顕著に現れました。三菱自動車は東京に本社、愛知県岡崎市に開発部門と車体工場、京都市にエンジン工場、岡山県水島に車体工場と、全国各地に主要拠点が存在しています。例えば岡崎の開発本部から本社に稟議を上げる場合、社長に届くまでに1週間ほどの期間が必要でした。「手書き電子決裁システムでは、社長まで早ければ1時間、遅くても1日ほどで届くようになって、意思決定のスピードは大幅に向上し、決裁プロセスも効率化することができました。電子決裁でも紙文書の場合と同様に社長直筆のメッセージを読むことで、現場のモチベーションも高まります」(弥田氏)。

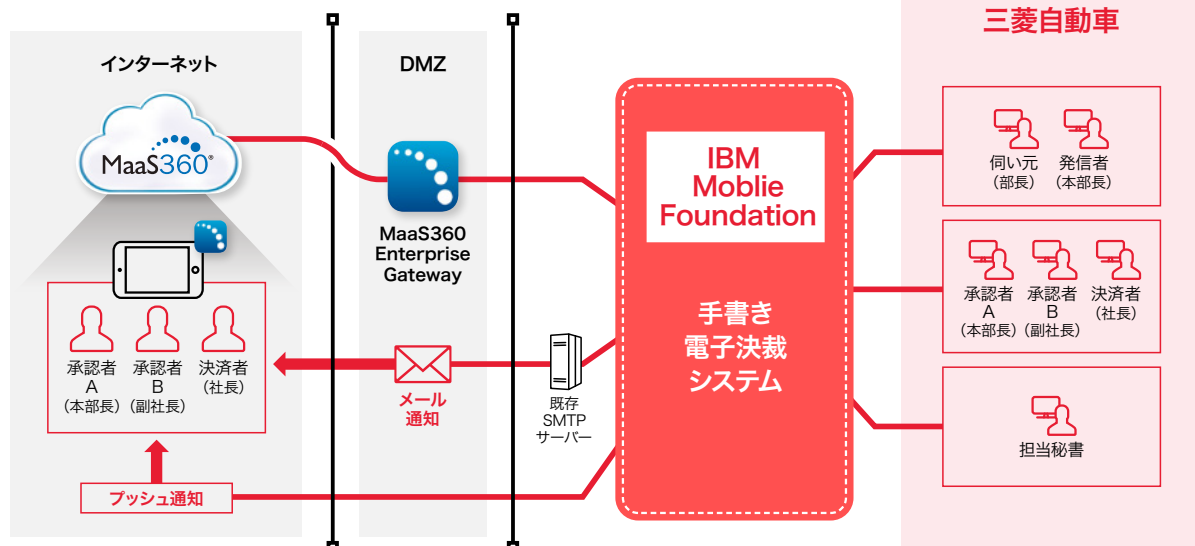
手書き電子決裁システムは、IBMが運用してきた三菱自動車内のデータセンターにあるサーバーで稼働していますが、今後はクラウド環境のIBM Bluemix Infrastructureへ移行します。

リリースした初日に
いきなり100件ほどの
申請が上がってしま
したが、大きな問題もなく、
そのままスムーズに決裁
することができました。



三菱自動車工業株式会社
グローバルIT本部
システム基盤部 主任
石井 真理子氏

手書き電子決裁システム構成概要



IBM Mobile Foundation
を開発プラットフォーム
として利用してきた経験
とノウハウを生かして、
試行錯誤を繰り返して
ながら、実装を進めて
いきました。



株式会社ミライト情報システム
エンタープライズ事業本部
第1システム部
第2システムG 課長
村上 欣孝氏

また、三菱自動車では、製造現場でも IBM Mobile Foundation でアプリを開発し、紙の代わりに iPad Pro の活用を進めています。京都工場のエンジン製造ラインでは2016年8月から、今までは紙に記録していたエンジン部品の品質検査結果を iPad Pro で入力しています。同様に、滋賀工場でも2017年4月から、エンジンの組み立て工程で、音声入力による iPad Pro の使用を開始、水島工場の塗装工程でも iPad Pro を活用した施策を検討中です。三菱自動車ではこうして蓄積されるデータを活かした、イノベーションの実現に取り組んでいく考えです。



mitsubishi motors

三菱自動車工業株式会社

〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号

<http://www.mitsubishi-motors.com/jp/>

三菱自動車は「大切なお客様と社会のために、走る喜びと確かな安心を、こだわりをもって、提供し続けます」を企業理念として、世界160カ国以上で販売事業を展開。アウトランダー PHEV や今後発売予定の新型エクリプス・クロスなどの SUV や電動車など、特化した領域で特長のあるラインアップを揃えています。国内、タイ、フィリピンなどの9カ国10生産拠点に加え、インドネシアで新工場が稼働。今後もアジアなどを中心に、積極的なグローバル展開を進めます。



MIRAIT

株式会社 ミライト情報システム

株式会社ミライト情報システム

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-23-2

<https://www.miraitsystems.jp/>

2001年に設立、ソフトウェア・エンジニアリング & サービス会社として、業務システム構築、ネットワーク構築、モバイル・アプリ開発、運用保守サービスなど多彩な ICT サービスと知恵と工夫で、企業のさまざまな ICT ニーズに対応しています。



©Copyright IBM Japan, Ltd. 2017

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

このカタログの情報は2017年8月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Bluemix、IBM MobileFirst および MaaS360 は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM 商標リストについては www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。iPad Pro および Apple Pencil は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。